

登山月報



明けましておめでとうございます 会長 八木原 罔明	2
平成 27 年度中・高・年安全登山指導者講習会（西部地区）の報告	3
アジア選手権大会報告	4
第 2 回海外登山懇談会	5
第 86 回 Mountain World	6
新連載 「山の日」制定記念 —ふるさとの山に登ろう—	7
平成 27 年度 東北総合体育大会山岳競技ブロック会議・ 日山協競技部ブロック別研修会報告	8
近畿地区山岳連盟総会参加報告書	10
平成 27 年度理事会（第 3 回）報告	11
新刊紹介	12
JMA、寄贈図書、編集後記	12

明けましておめでとうございます

会長 八木原 罔明

明けましておめでとうございます。本年も会員の皆さん、日本中の全登山者の皆さんが心地よい登山を安全に続けて欲しいと思います。

ご存知のように本年8月11日から国民の祝日「山の日」が施行されます。「山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝する日」です。しかし私ども登山関係者はもちろん、まだまだ多くの国民の間に浸透していないように思えます。周知不足です。

今から55年前の1961(昭和36)年7月、読売新聞社と全日本山岳連盟が催した“夏の立山大集会”登山教室の閉会式で「山の日制定」を提案しようと謳いあげ万雷の拍手で決議はしたが、時間の経過とともに霧消してしまいました。

それが具体的になったのは2002(平成14)年の国連提唱による「国際山岳年」の頃からであった。7月初旬の富士宮市での「富士山エコ・フォーラム 富士山の自然を君たちへ」に参集した1200人を前に読み上げられた小中学生のメッセージの最後に『・・・、日本に「山の日」をつくることを提案します』がありました。

2010年4月に山岳5団体により「山の日」制定協議会が発足し、翌年の東日本大震災を経、12年10月に国会議員も参加し山の日ネットワーク東京会議を開催、13年4月超党派「山の日」制定議員連盟(衛藤征士郎会長、谷垣禎一顧問)の発足、8月12日案は御巢鷹山の日航機事故の日のために1日前の8月11日となったという最後はあれよあれよという内に決まるという経緯でした。経済界も教育界も影響が少ないこの頃であれば反対のしようも無かった。2014年4月25日衆議院本会議で可決され、参議院に送られた。5月23日に参議院本会議で可決され、成立した。

私ども日山協としても喜んでばかりはいられません。登山界が一つになって「山の日」施行を好機と捉えて1人でも多くの皆さんが山や自然に親しむ仲間を増やし、登山の普及・発展につなげなくてはならない。それに伴って心配される遭難事故の防止、減少に努め美しく大切な日本の自然を後世に引き継いでゆく努力を続けなくてはなりません。その意味ではこれからが始まりです。

昨年9月28日の東京オリンピック組織委員会での2020年の東京オリンピックの5競技18種目の追加種目



候補の中に「スポーツクライミング」が入り、正式種目となる可能性が非常に高くなったことは皆さんご存知の通りです。

本年6月のIOC理事会の議決を経、8月5日のリオデジャネイロオリンピックの開会式前に開催される第129次IOC総会で最終的な決定になります。日本の組織委員会の推薦5競技がそのまま認められるか否かはまだ流動的です。

日本山岳協会はもちろん、国際スポーツクライミング連盟(IFSC)にとってもオリンピックの正式競技として参加することは悲願であったが、登山とクライミングを活動の両輪として捉える私どもはもちろん願ってもない喜びであります。

昨年暮れの日本勤労者山岳連盟の望年会で一緒にした本協会の元会長、斎藤一男さんも「日本で初めて開催したスポーツクライミングの世界カップの苦労を思い出すが、良かった」と言われ、「君も大変な時に会長に就任したが、考えようによっては良い時になったともいえる」とも激励して下さいました。

現実のものとなると大変なことである。選手は昨今の国際大会などでもまずまずの成績をおさめているが益々の選手強化が課題であろう。それより何より先ず日山協にその体制が出来ていないということである。スポーツの頂点、祭典と捉えられているオリンピックの中で整然と競技を進行できるか、役員も然りである。

座して待っているわけには行きません。積極的に打って出るしかありません。「スポーツクライミングは山登りではない」などとは言ってられません。登山の、岩登りから派生した立派なスポーツです。一刻の猶予もありません。日山協も自分達も変えてゆきましょう、変わりましょう。本年もよろしく願いいたします。

平成27年度中高年安全登山指導者講習会(西部地区)の報告

平成27年度中高年安全登山指導者講習会は11月28日(土)～30日(月)に開催された。月末の3日間であったので参加者が少ないのではないかと心配したが19府県から62人の参加を得て充実した3日間となった。そのほかに役員、講師、スタッフが35名で総勢は97名であった。

山域は戦後の「日本のヒマラヤ登山の原点」ともいえる京都北山と通称される京都市北部から福井県境に至る山中・京北の地を舞台の開催となった。京都北山は若き日の登山家であり文化人類学者でもあった今西錦司氏を始め西堀栄三郎氏、桑原武雄氏等が京都市中から北の山々をのぞみ「北山の発見」、「その探検」と称して分け入った山々である。

宿泊とインドア講習は京北の地にある京都府立ゼミナールハウスを利用し実地講習は「京都一周トレイル・京北コース」で行った。

初日(28日)は開会式の後、講演に移り

1. 「山岳事故から見る中高年登山の現状と問題点」(湯浅誠二講師)では種々、数字を示し危険シグナルとして「男の中高年の単独行」、「地図が読めない、地図を持たない」を解説された。

2. 「気象遭難の事例と遭難を防ぐために」(猪熊隆之講師)では「風と雲の関係」、「やる気のある雲」、「天気図と高層気象」、「天気の急変のシグナルと低体温症」など大変解りやすく解説された。ちなみに翌日の「晴れの予報」もいただき受講者は安堵した。

3. 「京都一周トレイルの生い立ちと自然、見どころについて」(岡田茂久講師)は時間の関係で「生い立ち」までは解説できたが見どころは消化不良に終わった感がある。

2日目(29日) 読図、救急搬送、観天望気を織り込んだ



救急搬送の講習風景



観天望気の講習風景

実技登山が実施された。京都一周トレイル・京北コース内に3コース用意されそれぞれ3つの班にグループ分けされ

第1コース：車移動の後、山国神社～竜ヶ坂～天童山～飯盛山～天童山～茶飲み峠～稲荷谷～高野～ウゲイ京北～車にて宿舎・・・(6時間、健脚向き)

第2コース：宿舎～筒江～井戸峠～千谷山(センダヤマ)～初川～京北山の家～井戸～常照皇寺～車で宿舎・・・(4時間30分、中級向き)

第3コース：宿舎～東屋～五本松～泣き別れ峠～熊田橋～合併記念の森～矢谷橋～北桑田高校～宿舎・・・(4時間、初級者向き)

当初の予定では第3コースが14時30分ごろ宿舎に帰着、その後第2コース、第3コースと順次帰着し宿舎展望台にて猪熊講師の観天望気の講習を予定していたが、各コースにおいてコース中での地点確認、読図、救急救命(各コースに現役の救急救命士を配した)、救急搬送などのほかにトレイルコース中の名所旧跡の説明など盛りだくさんで各コースの帰着がそれぞれ1時間ほど遅れ猪熊講師の観天望気は暗くなるまで続いた。

夕食は情報交換会の場となり参加府県からの酒、ワインの差し入れもあり、大いに盛り上がった。

3日目(30日)：閉会式に先立って2時間、課題の研究協議が行われた。3コース3班、9グループが本来の姿ではあるが2日間を終えて仕事の都合(月曜日)等で早朝に宿舎を離れた人もいたため8つのグループに再編成し協議された。

課題研究は

1. 中高年登山者を抱える各会、連盟の問題点
2. 問題点の解決方法について
3. 登山者が遭遇する危険・困難をどう予測、回避す

るか

4. 今回の講義内容を如何にして会員や一般登山者に伝達するか

5. 各個人・会等で発生した事例を出しあい、講習内容に照らし合わせて協議する

であったが、グループリーダーの報告では次のようなものが目立った。

☆所属山岳会でも中高年が多い。会員の高年齢化。

☆統計上、中高年の単独行の事故が多いのは理解できるが、自分もその仲間。

☆難しいことだが、やはり組織に入れる努力が必要。

☆岳連の個人会員(パーソナル会員)の充実。実施していない県もあるので、そのノウハウの共有。

☆登山学校、登山教室を開催している府県があるがしていない府県へのノウハウの提供。

☆猪熊講師の山の気象と遭難事例はよくわかったが、何度も聞かないと人に伝えるまでにはならない。3年ほど続けてもらえないか。・・・などであった。

研究協議、発表の後閉会式に移り国立登山研修所の宮崎所長より修了書の授与、日本山岳協会の仙石常務理事の講評、日本山岳協会の國松副会長の挨拶等で全日程を終えた。(京都府山岳連盟会長 四方宗和)

アジア選手権大会報告

スポーツライミングのアジア選手権寧波大会が11月20日～22日に中国浙江省寧波市で開催され、日本からは17名の選手と4名の監督コーチで大会に参加しました。

会場は巨大な船のオブジェの外装に圧倒される世界最大規模の新設されたクライミングウォールでした。しかし、大会期間中の毎日雨が降り、選手はコンディションに苦勞させられました。

結果は男子ボルダリングで掘創選手、女子ボルダリングで野中生萌選手、男子リードで是永敬一郎選手が見事優勝し、来年の世界選手権とワールドカップの出場権を獲得しました。その他、男子ボルダリングで渡部桂太選手、男子リードで中野稔選手、女子ボルダリングで野口啓代選手、女子リードで小林由佳子選手が銀メダルに輝くなど多くの選手が表彰台に立ち、合計9個のメダルを持ち帰ることができました。

ルートや課題の内容は厳しいもので選手達の気の抜けない真剣なクライミングが予選から見られました。特に女子のボルダリング決勝は野口選手と野中選手の一騎打ちとなり、最終課題を最終トライで完登し優勝への望みを繋いだ野口選手の登りと、その直後で優勝の

プレッシャーのかかった中での野中選手の優勝を決めた最終トライは会場を大いに沸かせました。同様に日本勢が上位を独占した男子ボルダリングも最後まで誰が優勝できるかわからない混戦となり、ベテラン堀選手が優勝決めた最終トライには会場全体が大いに盛り上がりました。そして、男子リードの決勝では時間切れにはなってしまったものの終了点をただ一人掴んだ是永選手の集中した登りも印象的でした。

2015年シーズンを世界で戦ってきた選手達の成長をこの大会でもしっかりと見せてくれ、世界選手権を控えた来シーズンへ向けて良い形で大会を終えられました。

また、今大会を通じてアジアの実力が飛躍的に上がってきていると感じました。今後、日本国内でももっと激しい代表争いで日本全体の力を上げて来シーズンが更に素晴らしいものになることを願っています。

また、今大会にはスピード競技に男女7名の選手が参加しました。日本チームもオリンピックに向けて新たな第一歩を踏み出しました。女子の野中選手は練習から飛躍的にタイムを上げ、見事決勝へ進出し、国内での競技施設の必要性もさらに強く感じました。

(選手強化常任委員 安井博志)



サバ州の観光大臣よりキナバル山登山再開が発表されました

東京(成田)発直利用で行く
マレーシア最高峰 Mt.キナバル登頂 5日間

発着地 東京 出発日 3/10(木)

旅行代金 ¥232,000 (燃油サーチャージは、旅行代金に含まれています)

旅行企画・実施 観光庁長官登録旅行業第490号/日本旅行業協会正会員/ボンド保証会員

ALPINE TOUR SERVICE 株式会社

〒105-0003 東京都港区西新橋2-8-11 第7東洋海ビル4階 ☎03-3503-1911

大阪 ☎06-6444-3033 名古屋 ☎052-581-3211 福岡 ☎092-715-1557

e-mail: info@alpine-tour.com http://www.alpine-tour.com

第2回海外登山懇談会

「マイク・リベッキ スライド&トークショー」報告

11月19日(木)19時～21時にかけて、代々木の国立オリンピック記念青少年総合センターの80人室に於いて、上記懇談会を開催いたしました。今年は懇談会の内容を協議しているところに、アメリカの探検クライマー、マイク・リベッキが来日して講演をしたがっているとの情報があり、せっかくの機会を活かすべく、急遽懇談会にマイク・リベッキの講演会を当てたものです。最初に連絡があったのは講演2ヶ月前で、それから日程の調整、謝金の確認、来日後の段取りなど、慣れない英語でのメールを何度となくやりとりし、どうにか実現にこぎつけました。参加総数54名、八木原会長をはじめ、神崎前会長、尾形副会長、小野寺事務局長もご来場いただきました。

マイク・リベッキは世界の辺境の壁、未踏の岩塔ばかりを狙って、数多くの初登攀記録を持つクライマーです。これまでの遠征は60回を越え、毎年2～3回のペースで世界の岩場に出かけています。今年も2月に仏領ポリネシアの岩塔ボウマカタワーに米クライマー、アンジー・ペインと出かけ、「Te Va Anui O Kau Kau (5.11 A3+)」を拓いています。ブッシュと泥にまみれた登攀の様子は、youtubeでも公開されています。アメリカ・ユタ州在住で42歳、12歳の娘リアナと暮らしていて、今回は娘さん同行での来日でした。

当日の講演は、最近出来上がったというビデオの上映から始まりました。初めはマイク・リベッキとは何者か、第三者が紹介している映像。続いては彼が娘を南極に連れて行って一緒にスキーをした時の映像でした。極地以外にも、ジャングルや海洋、また大岩壁に岩塔など、彼の活動の場は世界中に及び、その冒険を楽しんでいる様がよく伝わってきました。また娘と出かける遠征が一番楽しいと言い、奥さんとは別れてしまったそうですが、娘さんを大切にしながら自分の遠征をしていること



マイク・リベッキ氏の講演

が分かりました。

続いて一昨年にナショナル・ジオグラフィックの援助を受けて行った南極のクイーンモードランドの未踏岩壁登攀の映像を、本人の解説を交えながら上映しました。驚異的な暴風と寒さの中、登るべき壁を山群を一周して見つけ出し、垂直を越える壁やもろい壁を登り、ロープが切れそうなエッジの鋭い壁でのユマーリングをこなし、みごと登頂した話をさせていただきました。映像の多くは吹雪のシーンで南極の厳しい環境が伝わってくるものでしたが、雄大な景色やクライミング中のきれいな写真は大変見応えがありました。

その後、今回の講演会のきっかけを作って下さった東京YCCの小柳美砂子さんにもお話をいただきました。小柳さんはマイクの遠征のうち、バフィン島やマダガスカルでのクライミングを共にされています。初めてヨセミテで出会った時のことなどを楽しく話して下さいました。

最後の質疑応答でも盛んに質問が出ていましたが、時間が来て終了となりました。また閉会後の懇親会での交流も楽しみにしておりましたが、マイクは来日翌日の講演で疲れているとのことで懇親会には来場いただけず、そこは大変残念でした。

マイク・リベッキは未踏の壁、岩塔ばかりに挑んでいるクライマーです。それは、自分の目で見て自分でラインを引くという、登山やクライミングの本来の姿であるとも思います。そんなマイクの話聞いて、ガイドブックを追う登山やスポーツばかりではなく、自分の登山を切り開いていってくれる方々が増えることを願っています。マイクは来年も3つくらいの遠征を予定しているそうです。今後も彼の活躍に注目したいです。

(国際委員会 澤田 実)



マイク氏との思い出を語る小柳さん

第86回 Mountain World

この冬のナンガ・パルバット

池田常道

K 2 と並んで、8000 m 峰 14 座中まだ冬に登られていないナンガ・パルバット (8126 m) の話題は、2009 年以来毎年のように取り上げてきた。この山は、8000 m 峰のなかで最も早く冬季登山が試みられ、いまなお冬季未踏で残されている。1950 年初冬に行われた英国ソーンリー隊の試登から数えれば、30 回を超える挑戦が繰り返されてきたにもかかわらずいまだに落ちない理由は、ふたつ考えられる。

第一に、最も容易な登路となるべき通常ルート (1962 年ドイツ隊のディアミール側西壁と 76 年オーストリア隊のルパル側南西稜) が冬には極端な悪条件に変わることだ。西壁ではルート下部「キンスホーファー・ウォール」の雪が落ちて氷化してしまうし、南西稜はマゼノ・ギャップからディアミール側に移った先のトラバース部分が長く、西風にさらされる冬には危険で困難な行程となる。

第二には、従来のように人海戦術で固定ロープを張り巡らすチームがなくなって、少人数で挑むようになったため、高所に最終キャンプを置くこともなく、軽量・速攻型のチームが主体になったことが挙げられる。70 年代のような重厚長大作戦を用いれば、おそらくもっと早く冬季初登頂が成されていたかも知れないが、それが現代クライマーの選んだ道なのだ。

*

さて、今季挑んでいるチームはディアミール側に 4 隊、ルパル側に 1 隊の 5 隊で、いずれも一度ならず挑戦してきたクライマーが中心となっている。

2010 年以來 5 回挑んで 7000 m ラインを 3 回越えた経験を持つトマシュ・マツケヴィッチ (ポーランド) は、エリザベート・ルヴォル (フランス女性) と北峰西壁 (2000 年春にラインホルト・メスナーが 7500 m まで試登したライン) 経由の登頂を目指している。ルヴォルも、過去 2 回西壁ママリー・リブの冬季登攀を試みていた。マツケヴィッチとルヴォルは昨年 1 月に、今回のルートから 7800 m まで迫ったが、いったん下降したときにディアマ氷河で前者がクレバスに 50 m 転落、肋骨を折ったため断念した。今回はパキスタンのアスラン・アーメドを加えた 3 人で再挙を期して

いる。1 月 10 日時点で 6000 m にキャンプを設けたが、今季の気温はマイナス 40℃ を割り込むまで下がり、条件は厳しいと伝えてきている。一行はこの後 7000 m 台を往復してから攻撃に移る予定だという。

アダム・ビエレッキとヤーツェク・チェフのポーランドペアは、入山前にアンデスのオホス・デル・サラード (6893 m) で順応してから入山した。アルパインスタイルの攻撃に移る機会をうかがっているが、1 月の天候はそのために必要な数日間の好天さえ許さないようだ。なお、ビエレッキは 2012 年にガッシャブルム I 峰 (8080 m)、13 年にブロード・ピーク (8051 m) に冬季初登頂し、ポーランドの伝統を受け継ぐ冬季クライマーとなった。

スペインのアレハンドロ (アレックス) ・チコンとイタリアのダニエーレ・ナルディは昨年 3 月、パキスタンのアリ・サドパラと西壁の 7850 m に迫ったが、サドパラの体調が悪化したため断念を余儀なくされた。今回も同じメンバーで西壁から頂上を目指し、4850 m に C 1 を設けている。ナルディは昨年、3 回目となるママリー・リブ挑戦を試みたが、雪崩にテントをさらわれて断念、チコンのチームに合流して攻撃に加わったのだった。

シモーネ・モーロ (イタリア) は、シシャパンマ (8027 m)、マカルー (8485 m)、ガッシャブルム II 峰 (8034 m) と 3 つの冬季初登頂をモノにし、次の目標をナンガ・パルバットに定めた。しかし、2012 年の北峰西壁、14 年の南西稜はいずれも失敗。昨年早々に撤退してマナスルに転進したものの、そこで雪崩に遭うなど散々だった。今回は再びタマラ・ルンガー (イタリア女性) と組んでディアミール谷に入った。すでにガナロ・ピーク (6608 m) に登って順応を終え、機会をうかがっている。

唯一、ルパル側から南西稜を目指すのは、ポーランドのマレク・クロノフスキの率いる「ナンガ・ドリーム」隊。クロノフスキは 2011 年と 14 年にマツケヴィッチとディアミール側とルパル側をそれぞれ試みているが、今回は別個に 9 人の隊を編成して挑み、1 月第 2 週までに 6000 m を往復した。

冬季初登頂のタイトルを争って競争が過熱しているようにみえるが、モーロはこうコメントしている

「過去 30 年間にわたって争われてきた冬季初登頂をだれが手にするかは問題ではない。それぞれのやり方で頂を手にすれば、30 年来の課題は解決される」

「山の日」制定記念

—ふるさとの山に登ろう—

三重県・伊勢三山(局ヶ岳・白猪山・堀坂山)

日本有数の多雨地帯である紀伊山地にある日本百名山の台ヶ原・日出ヶ岳(1695.1m)を源流とした水は、日本三大峡谷の「大杉谷」を流れ下り、宮川となって伊勢神宮が鎮座する伊勢市で伊勢湾に注ぎ込んでいます。

その宮川の河口から眺めると、きれいな形をした山が三つ並んで見えます。左から局ヶ岳、白猪山、堀坂山で「伊勢の三ツ星」とも言われる「伊勢三山」です。江戸末期に書かれた「勢陽五鈴遺響」に出ていて、明治39年発行の「日本山嶽志」でも次のように紹介されています。

『近郡ノ高嶽ナリ、所謂本郡堀坂嶽同局嶽及白猪嶽ノ三嶽ヲ海東ヲ渉ル運船ノ的トス』

伊勢三山が伊勢湾を航行する船舶の目印の山となっていたことが伺えます。

台ヶ原山より延びる台高山脈の北の端、樹氷が見事な高見山(1248.4m)から東に延びる高見山地の東の端に位置するのが伊勢三山です。標高は700m～1000mと高くはありませんが、松阪市街地からも近く、老若男女のハイキングの山として親しまれています。

局ヶ岳 (1028.8m)

この山域では最も高い1000m峰で鋭く天を突いたような山容から「伊勢の槍ヶ岳」とも呼ばれています。山名の由来は、麓から見上げた形が十二単を着た平安貴族の局の姿に見えとか、局が山に登ったが帰ってこなくなり、雨の降る夜山頂で局の姿を見るようになったという局伝説などありますが定かではありません。

主な登山コースは、松阪市街から国道166号線を奈良方面へ30分ほど走ると登山口の案内があり、右折して10分で登山口の局ヶ岳神社に着きます。旧道と

新道の2つのコースがあり、それぞれ約2時間で頂上へ登れます。春はカタクリやシロヤシオの花がきれいに咲いています。

白猪山 (819.7m)

遠くから望む山の形は、左右均衡のとれた三角錐が印象的な山です。地元では「石尊山」とも呼ばれていて石尊大権現が祭られています。

登山コースは、都コース、深野コース、大城コース、坂内コースなど多くの登山道があります。深野コースは「日本の棚田百選」に選ばれた石垣棚田の集落を起点として、石尊大権現の参道を登ります。所要時間は駐車場から約1時間30分です。

頂上には展望台もあり台高の山々が見渡せます。

堀坂山 (757.4m) [表紙写真]

伊勢三山の中で最も東に位置し、市街地からも近く松阪市民から親しまれている山で、小中学生の遠足でも登られてきました。

山名の由来は、山を掘って鉱石を産出したため名づけられたと言われています。また、「伊勢富士」とも呼ばれ、山頂には富士権現(堀坂権現)が祭られています。麓には松阪市森林公園があり、春の桜、夏のキャンプ、秋の紅葉と多くの市民で賑わっています。

登山コースで最も多く利用されるのが堀坂峠からのコースで、毎日のように登る人もあり、約45分で頂上へ着くことができます。

山登りを楽しむのであれば、松阪市森林公園を起点として雲母林道コースから堀坂山頂上まで約2時間30分、そこから堀坂峠へ下り観音岳(605.9m)を經由して森林公園へ戻る一周約5時間のコースがお勧めです。

堀坂山の頂上からは360度のパノラマで、大台・台高山脈、鈴鹿山系の山々や伊勢平野・伊勢湾が望め、気象条件が良ければ白山、御嶽山、中央アルプス、南アルプス、遠くに富士山も見ることができます。

(三重県山岳連盟理事長 門山信男)



平成27年度

東北総合体育大会山岳競技ブロック会議・ 日山協競技部ブロック別研修会報告

平成27年度東北総合山岳競技ブロック会議・日山協競技部ブロック別研修会が、平成27年11月28日(土)、29日(日)の2日間、青森県山岳連盟が幹事県となって八戸市内のホテルで開催。会議には、東北6県岳連(協会)会長等18名が出席。ブロック別研修会の、山岳競技運営員認定研修会には16名が受講。日山協から高橋副会長、研修講師として競技部滝内壽一競技運営委員会常任委員が出席しました。なお、今回は、審判員研修受講希望者が少ないため競技運営員研修のみの開催となりました。

(1)「日山協の現状と展望について」講話 高橋副会長

①総務部関係

- ・日山協財務状況 平成27年度は、黒字決算見込み(上期見通し)
- ・スポーツクライミング五輪種目に関連する諮問委員会の設置については、スポーツクライミングの五輪追加種目としての推薦をうけ、日山協として登山とスポーツクライミングの両輪で、我が国登山界をけん引していくための組織体制の整備が人的、組織的、財政的面で急務になってきたことから、本年度末を期限として日山協の今後のあるべき姿について諮問。

②登山部関係

- ・来年の山の日制定記念事業は、各県毎にキャンペーン事業の展開を予定。全国「山の日」協議会主催のイベントは、8月11日上高地で予定。
- ・8月11日の全国一斉は難しい。例えば6月～8月とか期間を定めて実施してはどうか。1県100,000円の予算化を検討中。県、市町村主体の取組みについても要請。
- ・「みんな集まれ!ジュニア登山教室 in 立山」については、各都道府県岳連(協会)主体でブロック毎に開催を検討している。
- ・平成27年度山岳共済会「安全登山推進事業」の交付申請制度の積極的活用。1県50,000円 講習会、安全登山パンフ配布等対象。

③競技部

- ・審判員・ルート・セッター資格取得者の登録、認定、更新業務の遅滞については、日山協最重要課題として、現在登録台帳の整備中、各岳連(協会)の協力を得て28年3月までに完了予定。
- ・スポーツクライミングの2020東京オリンピック追加種

目推薦への対応については、NFとしての組織体制の整備が急務。選手強化対策、都道府県岳連(協会)との情報の共有とスポーツクライミングの普及

- ・第70回和歌山紀の国体山岳競技については、大会期間中好天に恵まれ盛会裏に終了。
- ・全般に選手ばかりではなくスタッフも含めて服装、頭髪、態度等マナーの徹底。オリンピック種目実現のためにも早急な改善、意識改革が必要。
- ・日体協公認スポーツ公認指導者名称変更について
- ・山岳共済制度については、位置探知器のレンタル貸出の活用
- ・保険の即日効力の発生、優待施設の拡充、他の保険との比較有利性のPRの必要性

(2)質疑応答、要望等

- ・審判員登録の未処理について、いつまでも先送りすることなく、しっかり対応して欲しい。不明事項等早急に各岳連(協会)に照会して進めること。ルートセッター登録も、誰が資格を持っているかわからない。資格者の公表等活用について工夫が必要。
- ・審判員、セッター等日山協独自の制度に係る申請、登録、更新の流れと岳連(協会)との係わりを整理してほしい。誰が資格を持っているかわからない状態。
- ・審判員、運営員、セッター等資格取得者が分からなくて大会運営、選手強化、普及にも支障をきたしている。
- ・日山協会長の諮問委員会には、日山協の名称も含めた諮問をしているのか。(答:名称も含めて包括的な諮問を予定している。)
- ・山岳共済会の補助金申請への迅速な事務処理を要望する。

(3)第70回和歌山国体について

国体運営全般に係る改善事項等について、滝内講師から説明を受ける。

- ・選手等への指摘事項として、受付の遅れ、一部受付提出書類に写真の添付がなかった、プログラム名簿ナン



バーと選手カードの枝番違い、受付後の選手の勝手な移動への嚴重注意

- ・大会期間中の観客数：ボルダリング6700人、リード7200人、計13,900人
 - ・監督用メガホーンの準備、後催県視察員の案内の徹底。
 - ・リード競技でルート図が出されなかった。出して欲しい。(答：出すようにしたい。)
 - ・アイソに不用物を持ち込んでいる選手がいた。(答：役員が預かる必要があった。)
 - ・授乳室の設置は良かった。保育士配置の託児所も欲しい。(答：岩手国体でもお願いしたい。)
 - ・全県が、ブロック予選大会に出場するよう頑張っている。
 - ・競技運営に関しては、疑問、照会等文書でのやり取りが重要
 - ・ドーピングに気を付けるよう注意、指導が大事。事前申請制度の周知
 - ・高体連登山部顧問にSC公認指導員資格者が少ない。顧問がSC資格を取れるよう配慮願いたい。(要望)(国体と同様、監督資格要件と出来ないか。(答：課題としたい。))
 - ・大会選手・監督の変更理由の疾病等の「等」とは。(答：身体の不具合、仕事の都合等)
 - ・公認審判員資格者の登録手続きの遅滞について、日山協から平成27年11月までに各岳連(協会)に文書照会するということがまた来ていない。(答：整理が遅れて申し訳ない。日山協の喫緊の大きな課題として取組んでいる。岳連(協会)の協力をお願いしたい。)
- 第2日目は、競技運営員受講者を対象にテキスト、ビデオによる競技運営員研修を実施

(4) 日山協理事会報告

斎藤喜代志東北ブロック代表理事(秋田岳連会長)から日山協第2回理事会、第3回理事会報告(登山月報・ホームページ参照)

(5) 平成27年度東北総体報告

- ・今年の岩手大会は、平成28年希望郷いわて国体の運営を想定して役員配置を行い予定通り終了した。
- ・種別の違う選手間で情報交換があった。(アイソの設定方法、選手移動コースの再検証)
- ・選手装着のアクセサリーに関して口頭抗議があった。文書で行うよう指導。

(6) 平成28年度東北総体青森大会について

- ・競技施設がないのが最大の課題。民間施設を借用して開催予定。
- ・リード競技は10m程の高さの施設で開催となるがルー

ト設定調整で対応し開催する。

- ・施設整備(特にリード施設)への開催市町村の対応が大きな課題となっている。
- ・日山協からスポーツライミングの普及のためにも施設整備促進への指導が欲しい。
- ・施設整備が大変である。日山協の後押し、支援をお願いしたい
- ・県、市町村への働きかけの際、日山協からも文書要請できないか。

(7) 第54回全日本登山体育大会について

- ・当初220名申込み。10名以上のキャンセル。最終参加者210人+役員80人で実施
- ・開催岳連への日山協運営補助金160万円を予定。(日山協派遣役員旅費含)
- ・日山協主催の全日大会開催に関して、日程、コース等先催県の事例等主要事項について、マニュアル化して示して頂ければ助かる。
- ・現在の全日本登山体育大会は、中高年齢者登山大会の感が強い。楽なコースを取って設定したが、もっと楽なコースの設定等の要望があった。次回以降の開催に向けて参加者アンケート結果、意見等全日大会全体の検討が必要な時期に来ている。

(8) その他

- ・公認指導員資格者情報が県体協までで岳連(協会)に来ないので実態の把握やSC公認指導員有資格者と岳連(協会)との協力体制をとるのが難しい。
- ・SC受験資格に関して、SC取得後岳連(協会)との係わりをどうするか懸念。

(記 日山協副会長 高橋時夫)

第54回海外登山技術研究会開催!

期日 平成28年2月13日(土)~14日(日)
会場 国立オリンピック記念青少年総合センター
内容 2015年登山隊報告
講演: 沖允人、山野井泰史、馬目弘仁各氏
※詳細は、<http://www.jma-sangaku.or.jp>

登山者の安心安全を守る!

画期的アイテム新登場

ブザー付GPS搭載端末

みんなの安心安全を守る

みまもり犬まもる

位置が分かる

HELP!

▶ 遭難や事故時に救難メール
▶ 家族にワンタッチ安否報告
▶ いつでもリアルタイム検索
▶ あとから足取り確認

株式会社ドンデ

03-6326-0407

support@donde.jp

詳しくはWEBで

<http://mamoru.donde.jp/>

近畿地区山岳連盟総合会議参加報告書

副会長 亀山健太郎

平成27年度近畿地区山岳連盟総合会議が12月5日～6日、大津市比良げんき村・滋賀県比良山岳センターにて開催された。この総会には(公社)日本山岳協会(日山協)より三役の一人が出席し、日山協の現状と展望をお話しし、併せて近畿地区山岳連盟所属の2府4県の日山協への要望事項等をお聞きすることが恒例とのことで、本年度は副会長の亀山がこの重責を担って参加してきた。

京都駅八条口にて日山協顧問城隆嗣氏の出迎えを受けて、比良山岳センターまで城顧問のお車で送っていただいた。車中、近畿山岳連盟のあらまし、最近の活動状況などをお話しいただき、近畿地方の岳連とはほとんど交流のない私には、大変勉強になった。

大津市比良げんき村・比良山岳センターは、琵琶湖西岸から立ち上がる比良山系の中腹に位置している。湖西線北小松駅からなだらかな九十九折れの坂道を登ると、宿泊施設、会議室が備わった木造の瀟洒な建物が見えてくる。

関東の登山者にはなじみが薄い比良の山々だが、関西の登山者には絶大な人気があり、その冠雪姿は歌川広重の近江八景「比良の暮雪」として浮世絵にも描かれている。



ここは昭和56年滋賀県で開催された「びわ湖国体」の山岳競技登攀会場管理棟として建設された施設で、少し離れたところには、高さ15メートル、勾配を調整できる本格的な人工登攀壁がそびえている。比良山系の山々を背負い、眼前には琵琶湖西岸が望める風光明媚な場所である。

午後から開始された総会は、まず國松嘉伸近畿岳連会長のご挨拶からはじまり、2日間にわたる総会スケジュールの説明のあと、私の講話時間となった。

頂戴した題目の「日本山岳協会の現状と展望」に関連し私なりに「都道府県山岳連盟(協会)と日山協のこれから」と題し以下の項目について、私の考えの一端を開

陳させていただいた。

1. 日山協が進むべき正しい方向は？
2. スポーツライミングは日山協と山岳連盟(協会)の救世主か？
3. 山岳連盟(協会)の存続基盤が崩れつつある現状をどうするのか？
4. 個人会員制度は山岳連盟を救うのか、加盟団体制度との整合性は？

また、過去10年間の近畿、関東地区山岳連盟の県別加盟団体数の推移を一覧表にし、その変遷の過程と今後の予想、減少傾向にある加盟団体数の補足あるいは代替え手段としての個人会員制度導入に関して意見を述べた。

	近畿地区山岳連盟対H17年度比		
	合計		対17年比
	H17	H27	H27/H17
滋賀県	16	16	100.0%
京都府	44	35	79.5%
大坂府	70	62	88.6%
兵庫県	38	32	84.2%
奈良県	9	9	100.0%
和歌山県	6	7	116.7%
合計	183	161	88.0%

	関東地区山岳連盟対H17年度比		
	合計		対17年比
	H17	H27	H27/H17
茨城県	39	30	76.9%
栃木県	40	34	85.0%
群馬県	26	24	92.3%
埼玉県	62	56	90.3%
千葉県	23	15	65.2%
東京都	272	203	74.6%
神奈川県	91	77	84.6%
山梨県	25	24	96.0%
合計	578	463	80.1%

この表は、平成17年と27年度の日山協会員・役員・委員名簿から抜粋した数字で、名簿発行時との多少のずれはある。平成27年度の全国山岳団体数は、同名簿を集計すると1271団体(高体連は各県1団体として集計)であり、近畿、関東地区を合わせると全国のほぼ過半数の加盟団体を擁していることになる。

集計・作表していて気付いた点は、関東地区においては、10年間で約2割の加盟団体数減少となっているが、関西地区においては1割強の減少で納まっている点である。これは、近畿地区山岳連盟が頻りに理事あるいは委員の交流を図り、諸問題解決への緻密かつ有効的な政策を実施していること、効果的な加盟団体へのアプローチ等が大きな要因であろうと、その後の理事会、懇親会で役員の方々と話して感じたことであった。

全国山岳連盟(協会)の加盟団体数減少は、死活問題であり今後の対応が急がれる喫緊の課題であることは確かである。しかし、加盟団体役員の高齢化が主たる要因と一途に思い込み、手をこまねいているだけでは登山者を組織し、安全登山啓発とその実践を目指し日本の登山界の発展を目指す団体(日山協と都道府県山岳連盟)としては今後には憂いを残すことになる。

スポーツライミング競技が2020東京オリンピック競技候補に推されたことは確かに朗報であり、これにより日本におけるスポーツライミングの人気に拍車がかかり、選手層と競技施設の拡充は2020に向けて昇竜の勢いとなること明白である。

一方、長い年月育んできた日山協の事業基盤である登山に関して、今この時期に、この時期だからこそ、時勢に流されることなく腰を据えて思慮をめぐらすよい機会ではないかと、北小松から京都まで、比良山系と琵琶湖西岸の間を縫うように走る湖西線から晩秋の陽光にたゆとう湖面を眺め、考えながら帰路についた。

平成27年度理事会(第3回)報告

日時 平成27年11月8日(日)10時30分～15時15分

場所 岸記念体育会館101～103号会議室

出席者

理事：八木原罔明、尾形好雄、國松嘉伸、高橋時夫、亀山健太郎、小野寺齊、西内博、仙石富英、瀧本健、水島彰治、森下健七郎、京才昭、中瀬和徳、相良忠麿、増山茂、小野倫夫、齊藤喜代志、小宮山稔、亀井正明、伊藤克己、大西一俊、峯本典寛、下田泰義。以上理事23名

監事：内藤順造、岡本忠良、中島正喜。以上監事3名

欠席者 北村憲彦、牧野治生。以上理事2名

1. 開会

八木原会長の挨拶に続いて、定款第32条第1項に定めるところにより、八木原会長が本会議の議長となり、定款第33条第1項に定める定足数の充足を確認して、本会議の開会を宣言した。

次いで、定款第34条第2項に基づき議事録署名人を八木原会長、内藤・岡本・中島各監事とし、議案の審議に入った。

※会議の成立状況(定款第33条第1項)：定数：28名(理事：25名、監事3名)

(出席者：理事23名、監事3名 欠席：理事2名)

2. 報告

(1)報告第1号 平成27年度上期事業報告及び会計報告について

小野寺常務理事から資料に基づき、平成27年度上期事業が報告された。中瀬・西内常務理事から関連項目の補足説明がなされた。

続いて相良理事から会計資料に基づき、平成27年度上期の貸借対照表、財産目録、正味財産増減計算書内訳表、財務諸表に対する注記、附属明細書について報告された。

「みんな集まれジニア登山教室 in 立山」とクライミングの賞金大会について質疑の後、報告第1号は、出席理事全員が了承した。

(2)報告第2号 平成27年度中間監査報告について

内藤監事から資料に基づき、平成27年度中間監査報

告として総括意見及び主要指摘事項(業務・会計)が報告された。

質疑の後、平成27年度中間監査報告は、出席理事全員が了承した。

(3)報告第3号 平成27年度第一次補正予算について

小野寺常務理事から資料に基づき、平成27年度第一次補正予算が報告された。続いて相良理事から会計資料に基づき報告された。会計資料は、分かり易く表示して貰いたいとの指摘を受けた後、平成27年度第一次補正予算は、出席理事全員が了承した

(4)報告第4号 平成27年度上期山岳共済会報告について

尾形副会長兼専務理事から資料に基づき、平成27年度上期の山岳共済会について報告された。他の山岳保険との優位性等の質疑の後、平成27年度上期山岳共済会報告は、出席理事全員が了承した。

3. 議事

(1)議案第1号 平成28年度事業方針案及び予算編成方針案について

小野寺常務理事が第1号議案の議案説明を行い、説明終了後、議長が議場に諮った。

競技関連の協賛金セールスや「山の日」イベントの展開についての質疑の後、議案第1号は、賛成23、反対0で承認可決された。

(2)議案第2号 就業規則、給与規程、退職手当支給規程、表彰規程の改定について

尾形副会長兼専務理事が議案第2号の議案説明を行い、説明終了後、議長が議場に諮った。

議案第2号は賛成23、反対0で承認可決された。

(3)議案第3号 アンチドーピング規程の改定について

尾形副会長兼専務理事が議案第3号の議案説明を行い、説明終了後、議長が議場に諮った。

議案第3号は賛成23、反対0で承認可決された。

(4)議案第4号 (公社)日本山岳協会スポーツ指導者規程一部変更(名称変更)

小野寺常務理事が経緯を説明し、瀧本常務理事が議案説明を行い、説明終了議長が議場に諮った。

議案第4号は賛成23、反対0で承認可決された。

4. その他

(1)業務執行理事の職務執行報告について

法令に基づき代表理事(会長)及び業務執行理事から平成27年度上期の職務執行報告が行われた。

(2)UIAA/UAAA総会報告について

小野寺常務理事から資料に基づきUIAA/UAAA総会報告がなされた。

(3)第54回全日本登山体育大会・宮城大会報告について

仙石常務理事から第54回全日本登山体育大会・宮城

大会の報告が行われた。

第55回大会(島根)の名称から「体育」の文字を外すとの説明について意見が交わされ、普及委員会で検討して常務理事会で審議することになった。

(4)第70回和歌山国体山岳競技大会報告について

森下常務理事から資料に基づき第70回和歌山国体山岳競技大会の報告が行われた。

(5)役員研修会報告について

國松副会長から資料に基づき役員研修会の報告がなされた。

(6)2020年東京五輪追加種目に関わる報告

尾形副会長兼専務理事から資料に基づき、東京五輪組織委員会との一連の経緯について報告があった。

(7)ネパール大地震救援募金報告

尾形副会長兼専務理事から資料に基づき、山岳6団体との共同募金活動について報告があった。

(8)スポーツライミング五輪種目化に関わる会長諮問委員会の設置について

尾形副会長兼専務理事から資料に基づき、趣旨の説明があった。片手間では出来ない事柄が続出している。2020東京五輪に鑑み協会の名称変更を含めて提言を求めたい。諮問委員の選出も早めに行いたい。

(9)スポーツ庁の創設と新たなスポーツ行政について

尾形副会長兼専務理事から資料に基づき説明があった。

(10)平成28年度版「山岳遭難・捜索保険のご案内」及び山岳共済会葉について

尾形副会長兼専務理事から資料に基づき説明があった。

(11)当初の議題にはなかったが内藤監事から要望があった。

監査報告を見ればお分かりの通り、所見の項目が多い。達成度を特別に見ているが、3年も同じ状態が続いており、異常な状況だ。事務局から進捗度合いを聞いてはいるが、指摘事項を精査し、問題点の共有を図り役員全員で問題解決を進めていただきたい。

5. 閉会

以上をもって全ての議事の審議を終了したので、議長は15時15分、閉会を宣した。



平成27年度12月(27年12月)
常務理事会報告

日時 平成27年12月10日(木)
18時～21時
場所 岸記念体育会館会議室
出席者 八木原会長、尾形・國松・高橋・

亀山各副会長、小野寺、西内、仙石、森下、京才、水島、瀧本、中瀬各常務理事、中島監事

委任：國松副会長、水島常務理事(14名中、12名出席)

途中退席：瀧本常務理事

※常務理事会に先立ち神奈川県山岳連盟からネパール地震募金の贈呈式が行われ、神奈川県連岡本安夫会長から八木原会長に274,500円の寄付目録が贈呈された。

新刊図書紹介

夏山登山教程

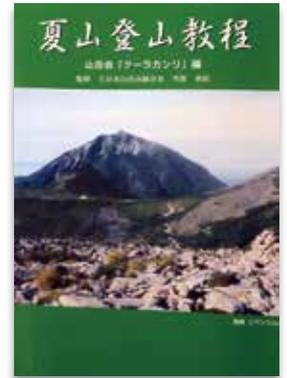
山岳会「クーラカンリ」編

「夏山登山教程」には登山の基礎が十分盛り込まれている。巷に登山技術書は数多くあるが、この書はその範疇に留まらず、山の風景、動植物も写真付きで紹介されており、読んで楽しい内容となっている。執筆者も日体協・日山協の公認指導員と

いうことで、教えるツボをよく心得ている。女性ならではのきめ細かさも散りばめられている。そして「クーラカンリ」という山岳会の名前にも表されるように登山は夢を持つとさらに興味が湧くという事、単に教え教えられるだけではなく、楽しむものという根底の考え方が要所要所に生かされている。目次をみるとそれが一目でわかる。「栄養と食事」、「環境保護」など現代的な視点で書かれている。遭難はなかなか減らない。悲惨な遭難も繰り返されている。多くの方々がこの書を読むことにより、例えばベテランは自分の登山をレビューし、見直し、新人は繰り返し読み、そして実践すると良い。登山の現場、登山指導の現場は、時代とともに変化しているし、その正に時宜にあった教程書である。

(小野寺 齋)

A5判、176頁、定価2,000円+税、2015年10月1日、発行所：(株)あいわプリント



平成27年度ジュニア・普及情報交換会開催!

日時 平成28年2月13日(土)受付14時30～
会場 BumB ぶんぶく東京スポーツ文化会館
※詳細は、<http://www.jma-sangaku.or.jp>



想像をはるかに超える「保温力」
超肌着力

1. 議事

- (1)平成27年度11月常務理事会・連絡部会議事録の承認について
事前に送付しており異議なく承認された。
- (2)平成27年度理事会(第3回)議事録承認について
事前に送付しており異議なく承認された。
- (3)全日本登山体育大会の名称変更について
資料に基づいて仙石登山副部長から説明と提案があった。
第55回島根大会から大会名称を「全日本登山大会」とすることで承認された。
尚、2/5(金)に登山正副部長と三役で全日大会のあり方を協議する。
- (4)NMAへの地震災害救援募金について
小野寺事務局長からU A A AのメンバーであるNMAに対して労山と折半で3000ドルを贈呈したい旨の提案があり、会長から経緯の説明があった。
異議無く承認された。
- (5)新春懇談会特別表彰の候補者推薦の承認について
小野寺事務局長、瀧本指導委員長から資料に基づき提案があり、以下9名の表彰が承認された。
佐藤旺(東京)、秋山泉(山梨)、宮本義彦(長野)、松本睦男(富山)、土肥浩嗣(富山)、溝上春見(長崎)以上岳連(協会)推薦6名。目次利雄(千葉)、前田善彦(奈良、高体連)、瀧本健(東京)、以上指導委員会推薦3名。尚、各岳連からの推薦は1/7の常務理事会まで引き続き受け付ける。
- (6)アイスクライミングワールドカップ派遣について
小野寺事務局長と森下競技部長から資料に基づき提案があり、以下の5名の派遣が承認された。
男子：奈良誠之、吉田貢、大庭泰治
女子：石渡貴子、八木名恵
- (7)国体山岳競技開催基準要項細則の改定(表3「役員組織図」及び表4「役員構成表」に関わる改定)について
森下競技部長から資料に基づき提案があり、山岳競技役員構成表(表4)の競技副会長を「日山協副会長又は競技部長、開催岳連会長」とすることで了承した。但し、細則の改訂は理事会の承認が必要なので、3月の理事会に諮ることとし、日体協と協議することも確認された。
- (8)指導委員会・規約改定について
瀧本指導委員長が資料に基づき提案を行った。改定のポイントは指導者の更新登録基準、受験資格である。前者は日体協・都道府県体協が実施する更新のための義務研修が追加され、競技に審判員、ルートセッターとして参加した場合には従来は認められていたが、今後はこの項は削除とのことである。後者において、山岳指導員については個人会員もカバーしたが、ほぼ基本は変わらない。スポーツクライミング指導員に関しては、「岳連が認めるもの」という表現の提案で山岳指導員が岳連所属については規定しているのと違い、非常に不明瞭とのことと保留になった。
- (9)報告事項
ア 平成27年度11月度会計月次報告
小野寺事務局長から資料に基づいて報告があった。中島監事から、3ヶ月毎に配賦処理したらどうか、と提案があった。
イ 平成27年度中高年安全登山指導者講習

- 習会(西部地区)について
尾形副会長から11月28日～30日に京都で開催された西部地区の報告があった。
- ウ 平成28年度事業計画、予算編成について
小野寺事務局長から、28年度予算策定に関しての説明があった。
1/19、22に予算折衝会議を行い、2/1に会長決済。
- エ 会長諮問委員会報告
尾形副会長から諮問委員メンバー、諮問内容について報告があった。
- オ アジア選手権及びアジアユース選手権の結果報告
森下競技部長から資料に基づき報告があった。
アジア選手権で金3、銀4、銅2獲得
アジアユース選手権で金14、銀8、銅6獲得
- カ 和歌山国体・埼玉抗議経緯と要望書
資料に基づき森下競技部長から報告があった。
- キ 岩根アイスクライミング競技会報告と課題について
議事(6)項で報告。
- ク 審判・ルートセッター台帳登録、岳連への照合依頼
森下競技部長より報告があった。調査は終了し各岳連にデータを含めて文書通知した。照合して頂き、各岳連からの報告待ちになっている。
- ケ BWC及びBJP大会実行委員会報告
森下競技部長より現状について報告があった。
- コ 全国高校選抜SCについて
中瀬高体連担当常務理事より資料に基づいて報告があった。
- サ JOC研修報告「NFのガバナンスとコンプライアンス」
小野寺事務局長より報告があった。
- シ JMA会員サービスDBについて
小野寺事務局長より総務担当の北村理事、小宮山理事の3人で打ち合わせを行ったことが報告された。
- ス ネパール募金山岳6団体打ち合わせ報告(11月19日分)
小野寺事務局長より資料に基づき報告があった。
- セ 税額控除に係る証明書
小野寺事務局長より日山協も税額控除団体になったことが報告された。本年11月20日から5年間

2. 後援報告、協賛等の依頼について

- (1)平成27年度「雪崩防災週間」における後援名義の使用について
異議なく承認された。
- (2)第5回アンコールカップ後援名義使用について
異議なく承認された。
- (3)平成27年度JOCスポーツ賞「女性スポーツ賞」候補者の推薦方について
該当者がいれば事務局へ連絡することで了承。
- (4)山岳文化地方講演の後援について
異議なく承認された。
- (5)「第11回日本スポーツグランプリ」候補者の推薦について
該当者がいれば事務局へ連絡することで了承。

3. 報告

- (1)審判員 C級→B級昇級
武井 浩(愛媛)・永井敬明(愛媛)の昇進承認
- (2)SC上級指導員

- 加藤由美子(東京)、藤田裕子(新潟)、山田雅之(秋田)、渡部(宮城)の4名を承認
- (3)SC主任検定
橋村昭男、林千里夫、石井明彦、山納秀俊、以上4名北海道
- (4)AC-A級主任検定員
亀田行宣(石川)、清水学、金川信二、以上2名神奈川
- (5)AC-B級主任検定員
中村まさ子(石川)

4. 専門委員会動静(11月1日～12月9日) [報告]

- (1)指導委員会 11月2日(月)
出席者12名 委任2名
ア 指導・遭対合同会議(10/14:夏山リーダー検討会)報告
イ)日体協表彰規程改定について
ウ)静岡式ブルージックについて
SABにてフリクションノットで固定するときに、普通のフリクションノットでは、解除できなくなってしまうことが解除できる方法
- エ)検討事項
①SC指導員申請(秋田のSC指導員)
※10/8の常務理事会で21名について承認、但し所属岳連についても今後記入のこと
オ)SC上級中央開催(東京)の認定報告
カ)SC上級指導員養成講習会(熊本、11/21-23)について
キ)SC指導員養成講習会(静岡)委託開催について
ク)北海道岳連のSC主任検定員について
ケ)規約改訂(別紙)について
・名称の変更:AC:山岳 SC:スポーツクライミング
・受験資格:AC:岳連所属を条件 SC:岳連所属を条件としない
・義務研修:AC、SCともに体育協会の研修会を認める
コ)SC/AC資格分離について
サ)H27年度の登攀技術研修会(丹沢:11/21-22)について
シ)上級指導員認定について
ス)指導者表彰の推薦について
前田善彦(奈良)、目次俊雄(千葉)、瀧本健(東京)を推薦
- (2)デジタル情報委員会 11月6日(金) 出席者4名 委任3名
ア)アンケート結果報告について
イ)アンケート結果を踏まえた議論
- (3)国際委員会 11月10日(火)
出席者8名 委任4名
ア)海外登山奨励金交付隊であるチャムラン隊の遭難事故について
イ)BMC冬の募集について
大部良輔氏1名を推薦
ウ)ネパールトレッキング許可ピークの管轄がNMAから観光省へ変更した件につて
エ)海外登山懇談会について
・11/19(木) マイク・リベッキ講演会
オ)第54回海外登山技術研究会について
2/13(土)PM～14(日)AM、オリセン80人部屋
カ)28年度の予算編成について
キ)国内外に向けてのHP案について
(4)自然保護委員会 11月19日(木) 出席者12名、委任3名
ア)山岳団体自然環境連絡会報告
10月30日 於:労山事務所 開催 松隈、堀江参加

- イ) 第4回関東地区自然保護交流会の報告(田上委員報告)
10月31日～11月1日 日立市 茨城
岳連主管 8都県 52名参加
 - ウ) 指導員研修会報告(西山委員報告)
11月7日 オリセン セ402 49名参加(埼玉12、東京:31、神奈川:4、山梨1)
 - エ) ライチョウ会議専門家会議報告(松隈報告)
10月25日 参加:松隈
 - オ) 「山の安全と楽しみ」全国大会報告
11月8日～9日 黒部市(参加:小林、松隈)
 - カ) ソーラーランタンの販売報告
 - キ) 28年度事業計画について
 - ク) 出前講座の開催について
 - ケ) ニュースレター(秋号)の発行について
 - (5)ジュニア・普及委員会 11月30日(月) 出席者7名
 - ア) ジュニア普及情報交換会について
2月13日15時～17時 東京スポーツ文化館
 - イ) なすかし雪遊び隊2016について
3/27(日)～28(月)の予定
- 5. 日誌(10月30日～12月9日)**
- (1)平成27年度雪崩防災週間実行委員会
11月2日(月) 於:国土交通省水管理・国土保全局 小野寺事務局長
 - (2)平成27年度上半期会計監査 11月4日
於:岸記念体育館 内藤、岡本、中島の各監事、尾形副会長、小野寺事務局長、相良理事

- (3)平成27年度全国山岳遭難対策中央協議会幹事会 11月5日(木) 於:中央合同庁舎7号館西館 西内登山部長、中川事務局員
- (4)NF広報強化支援セミナー 11月6日(金) 於:イイノホール&カンファレンスセンター 尾形副会長
- (5)自然保護指導員研修会 11月7日(土) 於:国立オリンピック記念青少年総合センター 松隈委員長
- (6)第3回理事会 11月8日(日) 於:岸記念体育館 八木原会長ほか理事・監事
- (7)対オランダ貿易のタベ スポーツ科学エコノミックミッション 11月11日(木) 於:産業技術総合研究所 八木原会長、小日向選手強化委員長
- (8)UIAA登山委員会 11月12日～14日 於:スペイン 遭対・青山副委員長
- (9)第58回オールスポーツマンゴルフ大会 11月16日(月) 於:久邇カントリークラブ 坂口顧問他4名
- (10)海外登山懇談会(マイク・リベッキ講演会) 11月19日(木) 於:国立オリンピック記念青少年総合センター 八木原会長、尾形副会長、小野寺常務理事、澤田委員長
- (11)ネパール大地震救援募金委員会 11月19日(木) 於:岸記念体育館 尾形副会長、小野寺常務理事
- (12)三重国体中央競技団体視察 11月19日(木) 於:三重県菟野市 京才常務理事、西原委員長
- (13)全国「山の日」協議会役員会・臨時総会

- 11月20日(金) 於:主婦会館プラザエフ 八木原会長、尾形副会長
- (14)内閣府より税額控除適用法人の認可 11月20日(金)
- (15)アジア選手権 11月20日(金)～22日(日) 於:中国・NINGBO(寧波) 小日向委員長ほか
- (16)JOCヒアリング 11月26日(木) 於:事務局 尾形副会長、小野寺常務理事、中川事務局員
- (17)第1回諮問委員会 11月26日(木) 於:アルカディア市ヶ谷 八木原会長、尾形副会長、小野寺・森下常務理事
- (18)埼玉県山岳連盟創立60周年記念式典祝賀会 11月28日(土) 於:浦和ワシントンホテル 八木原会長
- (19)東北ブロック山岳連盟総合会議 11月28日(土)～29日(日) 於:青森県 高橋副会長
- (20)平成27年度中高年安全登山指導者講習会(西部地区) 11月28日(土)～30日(月) 於:京都北山 國松副会長、仙石常務理事
- (21)JOCコーチ会議 12月2日(木) 於:品川プリンスホテル アネックス タワー5F 安井、水村、有枝の各選手強化委員
- (22)第3回救助技術高度化研究会 12月3日(木) 於:丸の内永楽ビル 町田遭対副委員長
- (23)JOC/NF国際フォーラム 12月3日(木) 於:味の素トレーニングセンター 尾形副会長、小野寺事務局長
- (24)日本勤労者山岳連盟望年会 12月4日(金) 於:労山事務局 八木原会長、尾形副会長、小野寺事務局長
- (25)(公社)日本山岳会創立110周年記念式典・晩餐会 12月5日(土) 於:京王プラザホテル 八木原会長
- (26)アジア・ユース選手権 12月4日(金)～6日(日) 於:マレーシア・Putrajaya 小日向委員長ほか
- (27)近畿地区山岳連盟総合会議 12月5日(土)～6日(日) 於:比良山岳センター 國松・亀山副会長

寄贈図書

山と溪谷社	「新全図解クライミングテクニック」堤 信夫 著
寄贈本 (株)ナカニシヤ	「インド・ヒマラヤ」日本山岳東海支部編
山と溪谷社	「山人たちの賦」甲斐崎圭 著
山と溪谷社	「山と溪谷」No.969 2016 1月号
雑誌 (株)ネイチュアエントープライズ	「岳人」No.823 2016 1月号
Korean Alpino Federation	「大山聯」Vol. 203
横浜山岳会	「月刊山」1002号
(公財)健康・体力づくり事業財団	「健康づくり」No.452
Korean Alpino Culb	「Man&Mountain」Vol.314
兵庫県山岳連盟	「兵庫山岳」第582号
(公財)全日本ボウリング協会	「JBC news」第529号
山と溪谷社	「ROCK & SNOW」070
NPO日本ワールドゲームズ協会	「THE WORLD GAMES」第2版
一等三角点研究会	「聳嶺」第八号
(公財)日本ゲートボール連合	「ゲートボールNavi」2015年号
(公財)日本体育協会	「体協スポーツニュース・フェアプレイング」2015年12月7日号
(株)スクールパートナーズ	「高校生新聞・高校生スポーツ」12月号
(公社)日本武術太極拳連盟	「武術太極拳」No.314
(公財)京都府体育協会	「京都府体協」No.120
長野県山岳協会	「やまなみ」No.219
日本勤労者山岳連盟	「登山時報」No.491
中国登山協会	「CHINA OUTDOOR 山野」総208期
岡山県山岳連盟	「岡山岳連」213号
財)日本防火・防災協会	「地域防災」2015.12 No.5
東京野歩路会	「山嶺」vol93 No.1030
Korean Alpino Federation	「大山聯」Vol. 204 2015 December
(公社)日本山岳会	「山」No.847

編集後記

2016年が始まり例年になく穏やかな正月でした。
北信越地域で登山届に関する条例や、地域を代表する山岳のグレード付け、登山者の体力グレード評価など、従来アナログ的だった山の難易度のデジタル化がすすめられている。情報を判断するのは登山者ではあるが、そこへ適正に導くのが組織でありJMAの使命ではなからうか。今年も宜しく願います。

(広報担当 水島彰治)

登山月報 第562号

定価 110円(送料別)
 予約年間 1,300円(送料共)
 昭和45年12月12日
 第三種郵便物認可
 (毎月1回15日発行)
 発行日 平成28年1月15日
 発行者 東京都渋谷区神南1-1-1
 岸記念体育館内
 公益社団法人日本山岳協会
 電話 03-3481-2396
 FAX 03-3481-2395

NPO法人 北丹沢山岳センター

事務局 〒252-0184 神奈川県相模原市緑区小淵1545-1
 TEL 042-687-4011 FAX 042-687-3980
 E-MAIL kitatanazawa@kib.biglobe.ne.jp

蛭ヶ岳山荘 TEL:090-2252-3203(衛星電話)

神の川ヒュッテ TEL:042-787-2276

和田峠「峠の茶屋」TEL:042-687-2882

ユーンロッジ安全管理 TEL:042-687-4011

理事長・代表 杉本憲昭

NPO法人 北丹沢山岳センター

神奈川県・山梨県東部トレイルラン連絡協議会

事務局 〒252-0184 神奈川県相模原市緑区小淵1545-1
 TEL 042-687-4011 FAX 042-687-3980
 E-MAIL kitatanazawa@kib.biglobe.ne.jp

- 北丹沢12時間山岳耐久レース実行委員会
- 陣馬山トレイルレース実行委員会
- 八重山トレイルレース実行委員会
- 東丹沢宮ヶ瀬トレイルレース実行委員会
- 上野原秋山トレイルレース実行委員会
- 陣馬高尾ムーンナイトトレイルレース実行委員会
- 峰山トレイルレース実行委員会

大会々長 杉本憲昭

山岳
雑誌

岳人

山と人、
時代をつなぐ
「がくじん岳人」。

ひとたびページをめくると、先鋭的な現役クライマーから、散策を楽しむ登山愛好者、一線を退いた往年の登山家まで、「岳」を愛するすべての人々の想像力と冒険心をかきたてる、そんな存在でありたい。山の魅力や楽しさ、そこで生まれた文化を伝え、山と人との関係をより良いものにしたい、そんな思いを込め「岳人」をお届けします。

年間購読がおすすりめです。

購読割引 **送料無料** **限定品プレゼント**

年間購読なら、お得な価格で毎月お手元に冊子が届きます。

通常本体価格12冊 年間購読12冊
8,160円 (+税) → **7,480円** (+税)
(税込8,812円) (税込8,078円)

1年間で680円
1冊分無料



岳人オリジナル
手ぬぐい & ペーパーナイフ



2月号
1/15発売

「岳人」2016年2月号

【特集】地図の世界

【好評連載】フリチョフ・ナンセン「グリーンランド初横断」／石川直樹「まれびと」／畠山重篤「山と海の出逢い」／岳人プロフィール ほか

本体価格 680円 (+税)
★モンベルのウェブサイト、全国のモンベルストアや書店にて発売中!

年間購読
お申し込み方法

◎ウェブサイトで
<http://www.gakujin.jp>

◎お電話で (受付後に振込用紙をお送りします)
0120-982-682 / TEL 06-6538-5797
※フリーコールは携帯・IP電話からはご利用いただけません。

◎全国のモンベルストアで
<http://store.montbell.jp>

立ちどまらない保険。

MS&AD

三井住友海上



三井住友海上の安心

GK

www.ms-ins.com



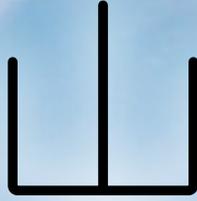
JMA

守ります。美しい日本の山。

祝

8
月
11
日

(2016年より)



国民の祝日

山岳保険は

日本山岳協会 山岳共済会

<http://sangakukyousai.com>

〒170-0013 東京都豊島区東池袋3-7-11-707

TEL:03-5958-3396 FAX:03-5958-3397

E-mail:sangakukyousai@mbd.ocn.ne.jp

月～金 10:00～17:00(祝日除く)

Webからも申込みます